

ふれあい 事業報告



子どもたちの
2024年度

親子ふれあい

たこ作り講習会 たこあげ大会

令和六年五月十一日（土）
令和六年五月十八日（土）



親子で協力して、
竹ひごと和紙を使
ってたこを作成し
ました。かわいい絵
を描き、翌週、小学
校の校庭で飛ばし
ました。みんな、頑
張って走ったね！

木崎小学校

ふれあいまつり参加

令和六年十一月二日（土）

木崎小学校の『ふれ
あいまつり』に参加
し、「昔遊び」を行いま
した。

あやとり、折り紙、
コマ、けん玉。昔の子
どもも、今の子どもも
一緒になって楽しく
遊びました。大原中学
校の生徒さんがお手
伝いしてくれました。



昔遊び



木崎小学校

昔の生活体験

令和七年二月二十四日（金）



三年生「社会の学
習」のお手伝いをしま
した。洗濯板で、自分
の靴下を洗い、七輪
で、おせんべいを焼い
て食べました。みんな
とても上手に出来ま
した。

親子ふれあい手作り教室

シーグラスアート

令和六年七月二十七日(日)

領家公民館にて

夏休みの一日、親子でシーグラスを使った作品を作りました。波にもまれて角の取れたガラスの小片は、子どもたちの想像力によって、素晴らしい作品になりました。暑い日でしたが、海を感じたね。



木崎小学校

放課後チャレンジスクール 土曜チャレンジスクール開催



チャレンジスクールの ボランティアに参加して

ボランティアスタッフ 守富 勝男

机に向かって学習している子どもたちの前に立つと、何か教えたくなる。長いこと学校で仕事をしていたせいかもしれない。悪い癖である。「分からないことがあつたら、遠慮なくどうぞ…」と言ってみるが、未だ質問してきた子どもはいない。「そつだよな、子どもたちにとって、私はボランティアのおじいさんだよな」と納得して、子どもたちの背中越しに学習をのぞきながら一回りする。これも癖か…と、一人で苦笑い。

図書室に入った三年生たち。これまで、チャレンジスクールに携わってきた皆さんの指導のおかげでもあるが、全く手がかからない。全員、自主的に自分の課題(大抵は宿題)を広げて取り組み始める。三年生がこ

れほどしっかりと自習ができるのかと感心している。時計の針が三時三十分を指すと男の子たちが学習道具をまとめ、出口付近に並び始める。もう三十分たつたよ、早く開けてよと目が催促しているが「まだ二十九分です。廊下・階段は走らないよ」と、彼らに近づき携帯の時刻を見せる。「十、九、八、七…」と秒読みする子もいて、「早く遊びたい」という彼らの本音がうかがえたときほっとするのはなぜだろうか。体育館で走り回って遊ぶ方が楽しいに決



● チャレンジ活動時間

木曜日放課後 午後三時～四時半

土曜日 午前九時半～十一時半

● 活動内容

体育館で体を動かして遊び、教室で学習の補修や工作を行います



まつている。「帰りの会」が終わり「さようなら」の挨拶を交わしたときの解放感、期待感は今も昔も変わらないに違いない。なのに、おまけのチャレンジの自習なのだから。

お迎えの時間、嬉しそうなお子たちを見て、一番待ち望んでいたのはこの時なんだと気づかされる。そうさ、そうでなければいけない。…はて、さっき「家に帰りたいくない、弟や妹の面倒見るのが大変なんだ…」とぼやいていた女の子は何処にいるのだろうと探してみる。家に帰りたいくないなんて穏やかでないかと本音をばかりかねていたが、心配は一気に消え去った。ママに甘えたかったんだね。お姉さんだからって我慢しているんだね。ママにしっかりとがみつきなうら帰っていく女の子。今ならママを独り占めできる、いづばい甘えたらいい。「三人の幼い子どもを育てるって大変だよな。でもそこには期間限定の楽しさや喜びがある未来の自立のためには甘える時間も大切、甘やかしてはいけないけれど。がんばってるね…お母さん」と心の中でつぶやいている。

チャレンジの帰り道、私の心は他では得られない気持ちで満たされている。校舎は変わっても、私の母校は変わらない。私の礎を築いてくれた木崎小学校が大好きなのだ。

